

## さくら川・明治学院大学ボランティアセンター地域連携プロジェクトについて

白金校舎からほど近い新橋に、2006年5月にオープンしたばかりの福祉プラザさくら川(以下さくら川)<sup>1)</sup>がある。さくら川は新潟県長岡市に本部を構える社会福祉法人 長岡福祉協会<sup>2)</sup>を母体とし、特別養護老人ホーム(特養)、介護老人福祉保健施設(老健)、知的障がい者更生施設の3つの機能が盛り込まれた新しい形の施設である。このプロジェクトでは、主に施設内にある地域交流スペース「茶房さくら川」で、施設職員と本学の学生が連携し、茶房を利用される方々(主に施設利用者さんとそのご家族)への接客と見守りを主として行っている。

当プロジェクトのきっかけは、白金校舎近隣施設として以前から交流があったさくら川のボランティアコーディネーターから、施設内の茶房を運営するにあたり携われる学生はいませんかと相談を受けたことだった。かねてから白金校舎近辺での社会貢献のありかたを模索していたボランティアセンターと、施設利用者と学生の交流の機会を模索していたさくら川の思いをすり合わせていく過程で、福祉関係のボランティアに関心のある長岡出身の本学生との出会いが重なり、「地域・大学・学生がそれぞれの立場でできることを発揮しながら共に協働し、地域社会への継続的な貢献と身近な共生社会の実現を目指して活動を創造していくこと」をコンセプトに、「さくら川・明治学院大学ボランティアセンター地域連携プロジェクト」が発足した。

そして8月に参加マニュアルや応募用紙などの書類作成、オリエンテーション準備やコア学生のトレーニング、その他細かい準備を経て、9月末の新学期から学内に向けてプロジェクト参加学生を募り、10月にはオリエンテーションとジョブトレーニングを開始した。最終的に12名の学生の参加が確定し、学生はボランティアグループ「ちえりっしゅ」という団体名で活動をスタートした。プロジェクト開始にあたっては、学生のリスクマネジメントの観点、発展的かつ継続的なプロジェクトを目指す観点からさくら川とボランティアセンターとの間で「覚書」を交わした。また10月末には、さくら川の法人本部がある新潟へ今後のプロジェクトを発展・展開する可能性を探るため、ボランティアセンターからセンター長と白金コーディネーターが新潟県長岡市にある社会福祉法人 長岡福祉協会を訪問し、法人常務や各施設長をはじめスタッフにお会いし、現地を視察させていただいた。

実際の茶房での活動は、上質なコーヒーだけではなく、さくら川の法人本部のある本場新潟のお煎餅を学生が心を込めて焼いて提供している。また「学生デー(学生だけで茶房を運営する日)」、「クリスマス週間」、「留学体験談」、「精神障がい者への煎餅焼きレクチャー」など、施設や地域のニーズと学生のアイデアをうまく融合させ、活動を展開している。活動に参加している学生たちの在籍校舎が白金・横浜両校舎にまたがっているため、情報の共有は主にメーリングリスト(さくら川・ボランティアセンターのコーディネーターも参加)を使い、月に1度は、学生、さくら川、ボランティアセンターの3者が集まるミーティングを開いている。ボランティアセンターでは学生の対応やアドバイスをを行い、陰な

がら学生と施設との関係が円滑かつ良好に保てるようなサポートをしている。活動はまだ始まったばかりであるが、学生たちはさくら川施設内での活動に加え、大学内でも「ボランティアサークル情報交換会」<sup>3)</sup>に参加したり、本学が発行している「白金通信」やボランティアセンター発行のメールマガジン<sup>4)</sup>にプロジェクトに関する記事を寄せたり、新潟中越地震ボランティアに参加した学生たちが白金校舎で開催したコンサートで、社会福祉法人 長岡福祉協会が運営する障がい者授産施設で作られているクッキーやケーキを販売するなど、学内や学外に向けた発信活動も行っている。また、2007年12月には朝日新聞東京版に、当プロジェクトが大きく取り上げられた<sup>5)</sup>。

当プロジェクトから得る学生たちの学びは大きい。プロジェクトのメイン・フィールドである茶房を訪れる方々は主に施設利用者であることから、学生たちには通常の「喫茶店」とは違う気遣いが求められる。コーヒーは熱くないか、カップは持ちやすいか、この常連さんは右利きか、左利きか、お体で不自由なところはなかったか……核家族化が進み高齢者との交流も少なく、また障がいをもった方との交流の機会も少ない学生たちにとって、このような状況下での活動は時に大きな「試練」でもあった。しかし時間の経過とともに「最初はどう声をかけていいかわからなかったが、自分が考えたサービスが喜ばれるとうれしい」と話す学生もおり、徐々に活動内容が具体的に、そして自発的なものになってきている。まさに大学という枠を越えて地域社会に学生を育てていただいております、さくら川からも「学生の存在は施設利用者の方々にとって“外からの風”として映っている。彼らの成長を今後も一緒に見守っていきましょう」ということばをいただいている。

今後の課題は、新年度に向けた新規学生メンバーのリクルートとコアメンバーの育成である。そして学部学科、在籍校舎もまちまちな学生たちと、新橋にある施設をどのようにつなげていくか、コミュニケーションのありかたについても模索していく必要がある。そしてさくら川を拠点とした活動をさらに発展させて、本学の学生たちが施設利用者の方々と地域住民をつなぐ架け橋になることを目指していくとともに、ゆくゆくは新潟における地域連携の形も実現できればと考えている。 (李)



1) 福祉プラザ さくら川： <http://www.fukushiplazasakuragawa.com/>

2) 社会福祉法人 長岡福祉協会： <http://www.nagaokafukusi.com/>

3) 詳しくは本書「I. 2007年度活動報告 ボランティア博覧会」を参照。

4) 詳しくは本書「I. 2007年度活動報告 メールマガジンについて」を参照。

5) 朝日新聞 asahi.com： [http://mytown.asahi.com/tokyo/news.php?k\\_id=13000130712270001](http://mytown.asahi.com/tokyo/news.php?k_id=13000130712270001)

【「いのち」記事】助っ人の学生もてなし学ぶ (2007.12.27 付)。